

2020年9月9日

私の家にテレビが置かれたのは私が小学校に上がってからのことです。それまではラジオで放送されるドラマや娯楽番組を聴いてドキドキしたり、大笑いしたり、野球やお相撲の放送を聴きながら一喜一憂したりしていました。そのラジオの中身がどうなっているのか、私はとても興味を持ちました。七日、二学期最初の月曜朝礼では、次のような話をしました。



「学ぶ」ことはいつでも、どこでもできます。

夏休みの間も皆さんは学んでいました。机に座って鉛筆をもってする学びだけが、学びではありません。あなたの周りの大人の話を聞いたり、ふるまいを見たりして、皆さんは、多くのことを学んでいたのです。ゆっくり眺めた山や湖などの自然から、セミやトンボ、朝顔やヒマワリなどからも、たくさんのお話を学んだことでしょう。

子ども時代は、「学びの時代」と言ってもいいと思います。別の言い方をすると、いろいろな事に興味を持つ時代、質問が次から次とわき出てくる時代、と言うこともできるでしょう。虫や恐竜

などが好きな人、夜空の星に興味がある人などは、自分から調べて、難しい名前やわかったことがたくさんあるでしょう。物語を読むのが好きな人は、教科書に出てくるお話よりも、ずっと長いお話を読み切ることができるでしょう。テニスや水泳などさまざまなスポーツが好きな人、楽器の演奏が

好きな人たちは、どんどん上達しているでしょう。

私が担任の先生をしていた時に、実験が好きな女の子がいました。お休みの日は、台所の流しを使っているいろいろな実験をしていた、と教えてもらいました。皆さんは夏休みの自由な時間の中で、一人ひとり違う学び、自分だけの学び、「自学」を進めてきたのです。ノートにまとめたかどうかは、関係ありません。皆さんの頭の中に、体の中に、心の中にその学びは、楽しい思い出として残り、いつか、どこかで、あなたの役に立ってくれるのです。

これは何だか知っていますか。初めて見た人も多いのではないのでしょうか。大人でも、見たことのない人が、多いのではないかと思えます。お部屋を明るくする電球かな、と思った人が多いかもしれませんね。

これは、「真空管」というものです。電球と違い、周りを明るくすることはできません。でも、この真空管は、テレビで放送を見たり、ラジオで放送を聞いたりするための、大事な働きをするものでした。私が小学生の時、家族みんなでご飯を食べるときには、真空管を使ったラジオを聴いていました。

私の小学生の頃一番興味のあったことは、このラジオでした。アンテナを伸ばして、スイッチを入れると、中に入っている真空管にオレンジの小さな明かりがほわっとともる様子がすさまじく見えます。十秒ほどたって、ようやく人の声や音楽が聞こえてきます。そのころの私は、そのラジオ

が不思議でたまりませんでした。

私は子ども向けのラジオの本をよく読みました。学校で習わなかったことは、本や、お父さんから教えてもらいました。五年生ぐらいだったと思いますが、自分で真空管を使ったラジオを作ります。音が聞こえたときの喜びは、今でも覚えています。ラジオのことももっと知りたいと思ひ、いろいろな本で調べていくうちに、少し難しい本も、読んでわかるようになりました。難しいからいやだ、と思ったことは一度もありませんでした。

興味や関心のあること、好きなこと、自分で決めて頑張ることなどは、少しぐらい難しくても乗り越えていけます。学校の学びは、日本中の子どもたちが学ぶものですから、とても大切です。私は、それと同じくらい、自分の学び、興味のあること、面白いなあと思つて調べること、わからないからどんどん教えてもらおうこと、そんな自学は大切なものだ、と思つています。



子ども時代の学びで大事にしたものに「好奇心」があります。「なんだろう」「どうしてだろう」「どうなっているのだろう」「もつと知りたい」などの思いが大切にされたお子さんは、考えることの楽しさを知ることができます。「あたりまえ」

と想つてしまうことからは、先に進むことはできません。